

【小規模校の特性】

- 教職員と個々の児童・生徒が関わる時間が十分確保できることで、児童・生徒一人ひとりの個性や特性、生活環境等が把握しやすく、個に応じた指導や学習内容の密度を高めることが容易である。
- 全教職員と児童・生徒、児童・生徒間の人間関係の確立が容易であることから、所属感が高まり、安心感が醸成しやすい。
- 全校的なまとまりが作りやすい。
- 学校行事などで、すべての児童・生徒の活動できる機会が与えられる。
- 教職員間の意思疎通が図れ、教育課題に機動的に対応できる。
- 地域の特性を生かし、地域に立脚した教育課程の編成と実践が容易である。
- 保護者や地域との連携が容易であり、協力態勢が作りやすい。

【大規模校の特性】

- 多様な個性とのふれ合いを通して、互いの学び方や考え方、人間性等、その多様性やよさを学び合う機会が得られる。
- 多様な教育活動が可能であり、それぞれの個性を發揮して取り組むことができる場の設定に有利である。また、教職員数が多いため、個人が希望する選択教科や総合学習、クラブや部活動などへの選択肢が広がる。
- 多くの児童・生徒が集うことで生起する多様な課題への出会いをとおして、問題解決力を磨き、社会性の育ちにつなげることが容易である。
- 学級・学年間の「違い」により児童・生徒の学級・学年への所属感が高めやすく、明確な目標が設定され、互いに刺激を受けながら切磋琢磨する場面では、ダイナミックな取り組みが期待できる。
- 複数学級においては、担任同士の協働した教育指導や児童理解の広がり期待できる。また、校務分掌を分担できるので、組織的・機能的な運営が可能である。
- PTA活動では、刺激や活気が生まれやすい。

【小規模校の課題】

- 多様な考え方や生き方に触れる機会が限定され、自らを高める力、思いや考えを表現する力、説得する力などが育ちにくい面もある。
- 限られた集団の中での学校生活であるため、人間関係が固定化したり、ルール・規範意識を高めることや連帯意識が育ちにくかったりすることもある。また、学級編制替えができない単一学級編制である場合、人間関係の悩みが児童の心の負担となり、継続する場合もある。
- 多様なグループ編成が難しく、総合的な学習の時間や学級活動、体育や音楽などの学習での集団的活動の幅が狭くなる。
- 教職員数が少ないため教職員一人ひとりの負担が大きく、緊急時などの組織的・機能的な対応ができないこともある。また、教科担任制においては、多学年の授業を担当することが多く、教材研究等が難しいこともある。
- 少人数での登下校や人家の途切れる通学路の地域もあり、通学途上での安全確保（スクールバスの運行等）を図る必要がある。

【大規模校の課題】

- 児童・生徒や保護者の思いや願いに、きめ細かく即応できない場面があり、その対応の遅れが生じることがある。
- 個々の児童・生徒の活動が十分保障できなかったり、個々の思いが反映できない場面では、自らの個性を發揮できないことで、その意欲を低下させる児童・生徒を生むことがある。
- 大きな集団の中での学校生活となるため、「集団の陰に隠れ」たり、他への依存心を増大させる児童・生徒が生まれやすい。
- 多数の教職員を擁するため、従来の取り組みの継承には有利であるが、共通理解を要する新しい取り組みへの機動的な転換には時間が必要となる。
- 校区が広域となり、地域との情報交換や密接な連携が希薄になりやすい。
- PTA活動等において、保護者同士の顔が見えにくく、連携した活動が生み出しにくい。
- プールや体育館、特別教室など施設活用面において、利用時間の配分等が難しく教育活動に支障を及ぼすことがある。